

令和5年度「GREEN SEA 瀬戸内ひろしま・プラットフォーム (GSHIP)」の取組状況について

1 趣旨・目的

2050年までに瀬戸内海に新たに流出するプラスチックごみゼロを目指すため、令和3年6月に設立した、「GREEN SEA 瀬戸内ひろしま・プラットフォーム (GSHIP)」*の令和5年度の取組状況について報告する。

*製造・流通・消費に関する企業・団体・市町等 計122者で構成 (R6.5.17時点)

2 現状・背景

GSHIPでは、①プラスチックの使用量削減、②プラスチックごみの流出防止、③清掃回収、④情報発信の4つのワーキンググループを設置し、参画会員と連携・協力しながら、取組を検討・実施している。

3 概要

(1) プラスチック使用量削減の取組

令和4年度から生活由来の海洋プラスチックごみ対策に資する先進的な取組を行う企業等へ支援(リーディングプロジェクト支援補助金)を行っており、令和5年度は5件の事業を採択し、取組を実施した。

連携企業・団体等	主な取組内容(概略)	参考
(株)ダイセル、 県内宿泊事業者、(株)近畿日本ツーリスト商事、(株)サンヨーアメニティ、(株)オガワエコノス、広島県立総合技術研究所等	○海洋生分解性プラスチック素材の宿泊アメニティ(歯ブラシ)の利用拡大、アメニティの種類拡大に向けた開発(くし)を行い、ホテルへの導入可能性を調査 ※ 県内6施設での導入が決定 ○使用済み製品の回収及び回収物のカキ養殖パイプへのリサイクルスキームを検証 ※ 280kgを回収しパイプへ再生、耐久性等を評価。豆管での展開可能性を確認	①
三菱ケミカル(株)、 (株)フジシール、宝積飲料(株)、カゴメ(株)、(株)イズミ、(株)丸久、(株)高山商会、(-社)全清飲、(株)マルシン、大竹市等	○リサイクル可能なラベル材を用いたペットボトル飲料を製造・配布し、再ラベル化までの一連のプロセス(流通、回収、運搬、選別、再資源化)を検証 ※ 市中での回収スキームを確立、再生ラベルを製品化 ○大竹市内の小中学校やスーパーを基点とした飲料ペットボトルの3分別回収の促進やプラスチック資源のリサイクルに対する啓発活動を展開	②
東罐興業(株)、 (株)シンギ、大本紙料(株)、日本製紙(株)、県内事業所、学校等 【新規】	○プラスチックカップから紙容器への転換を推進するとともに、紙コップ洗浄機を用いた紙容器の水平リサイクルモデル(CUP TO CUP)の構築化に向けた周知・啓発活動を展開 ※ 広島女学院大学の学生と連携し、県民の行動変容を起こす啓発の仕組みを考え、学生主体で学祭等において展開するなど、県内6つのイベント等で体験型の啓発活動を実施	③

<p>NISSHA(株)、 NECソリューションイノベ ータ(株)、飲食店 等 【新規】</p>	<p>○中四国初となるデジタル技術を活用したテイクアウト飲 料容器のシェアリングサービス「Re&Go」の商店街での展 開可能性を調査、実証 ※ 広島市中区の個人飲食店等7店舗において、10月末～ 2月末まで試験導入</p>	<p>④</p>
<p>ユニリーバ・ジャパン・カ スタマーマーケティング (株)、(株)イズミ、(株)フレスタ、 (株)テレビ新広島、叡啓大学 等</p>	<p>○ポイント還元によるインセンティブを付与し、生活系使 用済みプラスチック容器（シャンプー等）を店頭回収 ※ 対象をメーカー不問とし、自社製品に限定しない取組 に拡大。回収した空容器はカードケースや布製品等に再 製品化したほか、使い切りパウチの包材に水平リサイク ル</p>	<p>⑤</p>

※連携企業・団体等下線部：補助金申請者（代表事業者）

【参考①～⑤】



①海洋生分解性プラスチック（酢酸セルロース素材）による歯ブラシ



②ペットボトルラベルを水平リサイクルし再製品化



③紙コップ洗浄機「リカップウォッシャー」



④デジタル技術を活用した容器のシェアリングサービス「Re&Go」

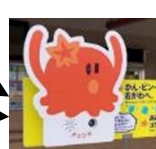


⑤シャンプー等の使用済みプラ製品回収BOXの設置（メーカー不問）

(2) 流出防止の取組

実施時期	主な取組内容（概略）	参考
R5. 10～ R6. 2	○道路におけるごみの散乱状況やドライバー等によるポイ捨ての実態把握、ポイ捨て防止に向けた情報発信等を実施【瀬戸内オーシャンズX連携事業】	—
R5. 10～ R5. 12	○(株)エフピコ及び(株)フレスタ等と連携し、スーパーへのペットボトル自動回収機導入による、店舗スタッフの負担軽減や店頭回収の拡大・効率化に係る最適方法の検討、効果検証を実施【環境省補助事業】	—
R6. 1～ R6. 2	○NEXCO西日本中国支社及び(一社)全国清涼飲料連合会等と連携し、山陽自動車道宮島サービスエリア（上り線）において、ナッジ理論を活用した「仕掛け・デザイン回収ボックス」による、ごみの適正分別の促進効果等を検証 ※ 「燃えるごみ」の袋の中に捨てられた「かん・ビン・ペットボトル」の個数について、啓発パネル設置中は減少傾向が見られたことから、分別意識の向上に繋がったと考えられる。	⑥

【参考⑥】 ナッジ理論を活用した「仕掛け・デザイン回収ボックス」による実証



目（看板）と耳に訴えかける仕掛けとデザインを採用

(3) 清掃回収の取組

実施時期	主な取組内容（概略）	参考
R5. 6～	○各地域で計画されていた清掃活動の情報を収集、集約及び一覧化し、申込希望のGSHIP参画会員とのマッチングを実施	—
R5. 10. 7 R6. 2. 4	○GSHIP参画会員等と連携した江田島市三高港周辺での海岸清掃の実施 ・GSHIP参画会員と連携した清掃（R5. 10. 7） ※ GSHIP会員15社・団体、106名参加 ・海ごみ対策を行うボランティア等による清掃活動及び交流会の実施（R6. 2. 4）【瀬戸内オーシャンズX連携事業】	⑦
R5. 10～	○㈱フィッシュフレンズと連携し、釣り人をターゲットとした海ごみの回収促進、ITを活用したホットスポットの把握・分析、ホットスポットでの清掃活動を実施【瀬戸内オーシャンズX連携事業】	—

【参考⑦】 GSHIP 参画会員等と連携した海岸清掃の様子



GSHIP 会員連携清掃



GSHIP 会員連携清掃
(清掃活動の様子)



GSHIP 会員連携清掃（マイクロプラスチックに関する学習会）



瀬戸内オーシャンズX
連携清掃

(4) 情報発信の取組

実施時期	主な取組内容（概略）	参考
R5. 4	○サッポロビール(株)や(株)中国放送、小売店等と連携し、瀬戸内海の海洋ごみ削減に向けた機運醸成及び意識啓発を目的とするサッポロ生ビール黒ラベル「瀬戸内海環境保全応援缶」を展開【瀬戸内オーシャンズX連携事業】	—
R5. 5	○GSHIP 参画会員と連携し、G 7 広島サミット国際メディアセンター内「広島県情報センター」での GSHIP の取組紹介、試飲試食ブースへの環境配慮型容器やカトラリー等の提供・紹介	—
R5. 7～ R6. 3	○環境省「令和5年度ローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業」採択事業として、2事業を実施 ・広島テレビ放送(株)等と連携し、広島の海のファンづくりをテーマに、江田島市を拠点とした海岸清掃、海洋シミュレーションを用いた学習会、海ごみ回収装置アイデアコンテストやアート制作、番組連動発信を展開 ・(株)そごう・西武 そごう広島店及びサンフレッチェ広島等と連携し、スポーツと海洋プラスチックごみ問題を掛け合わせ、スポーツウェア等のアップサイクルの見える化、スポーツファンや地域を巻き込んだ街中清掃を実施	⑧
R5. 11 ～ R6. 2	○高校生から20代の県内の若者が集まり、海洋プラスチック問題の対策に向けたアイデアを考える未来共創プロジェクト「ゼロチャレ広島」を開催	⑨

【参考⑧】 環境省「ローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業」



広島テレビの番組連動企画（アート制作）やアイデアコンテストの様子



紙屋町エリアでの清掃イベント、そごう広島店でのキャップアートの様子



【参考⑨】未来共創プロジェクト「ゼロチャレ広島」



体験：清掃イベントへの参加



考える：アイデア探索のグループワーク



共有：アイデア発表

4 今後の対応

- 使用量削減については、さらなる取組拡大に向け、令和6年度においても新規案件を採択するとともに、効果的な実証となるよう、市町との調整や参画会員との連携など伴走型の支援を実施する。また、これまでの取組に関して、その効果や課題を検証し、実証から社会実装につながる案件を絞り込んだ上で、販路拡大のためのマッチングや広報の強化など、積極的なフォローアップを行うとともに、国や産業界とも連携しながら、社会実装のためのビジネスモデルの構築につなげていく。
- 流出防止に係るモデル事業で効果の見られた取組の広域展開の推進、活動団体と参画会員とのマッチングによる清掃回収の拡大、メディア等と連携した情報発信の取組を順次検討・実施する。
- その他、国や関連団体等が実施するイベント等などの機会を通じて、本県の取組を継続的に情報発信するとともに、県民への海洋プラスチックごみ削減に向けた機運を醸成する。